

氏名	角田 慶一郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博 甲第 6117 号
学位授与の日付	令和 2 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Early Emergence of Neuropsychiatric Symptoms in Cognitively Normal Subjects and Mild Cognitive Impairment (認知機能正常者ならびに軽度認知障害における認知症周辺症状の出現)
論文審査委員	教授 山田了士 教授 伊達 勲 准教授 寺田整司

学位論文内容の要旨

高齢化が進んでいる国々では、認知症を発症前段階で検出することは重要な課題である。今回、我々は認知機能正常群 (n=218)、軽度認知障害 (MCI) 群 (n=146)、アルツハイマー型認知症 (AD) 群 (n=305) の 3 群の認知機能及び行動・精神症状 (Behavioral and psychological symptoms of dementia : BPSD) を調査し、統計学的検定を行った (倫理委員会承認番号 1603-031)。BPSD は阿部式 BPSD スコア (ABS) と MBI チェックリスト (MBI) で評価した。ABS と MBI で、それぞれ認知機能正常群の 12.4% と 9.6%、MCI 群の 34.9% と 32.2%、AD 群の 66.2% と 51.1% に BPSD を認めた。BPSD を認めた被験者では、AD 群のみ MMSE と ABS 及び MBI との逆相関が認められた。サブスケール解析では、認知機能正常群、MCI 群、AD 群と認知機能が低下するにつれて ABS の 4 項目 (徘徊、食事・排泄上の問題、幻覚・妄想、アパシー・無関心) と MBI の 3 項目 (意欲の低下、社会適合性、異常知覚・思考内容) で増悪を認めた。本研究により、認知機能正常群の中にも認知症発症前段階としての BPSD が一定の割合で存在していることが示された。

論文審査結果の要旨

本研究は、近年著明な増加が問題となっている認知症において、患者と家族等の生活にきわめて大きな影響がある行動・心理症状 (Behavioral and psychological symptoms of dementia; BPSD) に着目し、その検出や評価に役立つスクリーニング法 2 種類について検討したものである。対象は脳神経内科などを受診した患者で、アルツハイマー型認知症 (AD) 群、軽度認知障害 (MCI) 群、認知機能正常群の 3 群について阿部式 BPSD スコア (ABS) および MBI チェックリスト (MBI) を行った。その結果、両スケールとも AD 群で最も高頻度に BPSD を認め、ついで MCI 群、認知機能正常群の順に頻度は減少した。しかし認知機能正常群においても ABS で 12.4%、MBI で 9.6% と一定数で BPSD の存在が示唆された。認知症発症前においても BPSD が早期に存在する可能性を示唆する重要な知見といえる。

以上本研究は、認知症発症過程での BPSD の評価において重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。